

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所つくべた門司		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 8日		令和7年 12月 19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 8日		令和7年 12月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 3日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多くの専門職員を配置。	直接指導職員としてセラピスト(PT、OT、ST)、保育士、児童指導員、臨床心理士を配置しております。	必要に応じて門司病院小児リハビリスタッフと連携し、評価やアドバイスをもらうようにしていく。
2	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援を提供出来ている。	検査実施可能な子どもはK-ABCⅡ、LCスケール、遠城寺などの評価をセラピスト(PT、OT、ST)が行い、適切な個別支援計画となるようにしています。また、専門的支援計画も立案する事で、より具体的で、個別的な場面での介入、評価を行っています。子どもたち同士の関わりも大切にしながら、本人の特性と子どもの成長に合わせた支援を日々チームで検討しています。	連携を取っている門司病院の小児リハビリチームとの合同研修会を行っています。また、担当制を用い、より専門的な支援を心がけています。今後もよりスムーズな支援の為に、担当以外の利用児の支援の把握も充実していけるように努めていきます。連携を強化するためにも定期的な担当の変更などについても検討していきたいと考えます。
3	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されている。	ご意見より、「つくべた門司に通所することを楽しみにしている」等のコメントを頂いています。子どもたちの希望をかなえてあげられるよう、一緒にワクワク、ウキウキするような活動プログラムをセラピスト、保育士のチームで毎月検討しています。	研修会や本、門司病院小児リハビリスタッフからの情報をもとに、さらにワクワク、ウキウキするような活動プログラムをセラピスト、保育士、児童指導員のチームで毎月検討しています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会が少ない。	当事業所と園と直接交流する機会自体が、現在ない事が要因と考えます。当事業所は並行登園(地域の園に登園しながら療育している)を行っている利用児が半数以上をしめているため、地域の子どもと活動する、交流している機会は基本的にはあると考えます。	開かれた事業所となるよう、お祭りやイベントを企画して一般公開し、地域の子供たちと触れ合う時間を通して子供同士、保護者間の交流の場となる「つくべた祭り」を今年度も開催しております。来年度も地域の方も当事業所利用時でも参加できるイベントを企画してまいります。
2	子どもに対する家族の対応力向上のための「ペアレントトレーニング」等や家族が参加できる研修や交流の場の提供及び情報提供	保護者からの相談に対するアドバイスやコミュニケーションをとる方法などの説明は個別に実施しておりますが、「ペアレントトレーニングの研修」としては未企画。保護者交流会は実施しておりますが年に1回と少ない。	今後は家族も参加できる研修会の企画や外部研修会の情報を家族にアナウンスし、家族の対応力向上を図っていく。保護者間での交流が行えるイベント等の企画を検討。
3	第三者視点を取り入れる機会が少ない。	・職員間での振り返りや自己評価を実施している。	・外部研修や助言を取り入れる。 ・学びを職員間で共有し支援に活かす。